

令和2年度「北九州市学校事故等有識者会議」

会議記録

□ 日 時 令和3年3月24日（水）15:00～16:05

□ 場 所 小倉北区役所庁舎 東棟8階 812会議室（オンライン開催）

□ 出席者

（敬省略、50音順）

【委員】

北九州市医師会	天 本 祐 輔
福岡県臨床心理士会	伊 東 夏 樹
九州共立大学	篠 原 純 司
西南学院大学	中 馬 充 子
福岡県弁護士会	原 田 美 紀

【事務局】

教育長、教育次長、指導部長、指導第二課長、教育相談・連携担当課長 ほか

□ 会議次第

○教育委員会挨拶

○議事

1 本市における学校事故等への対応の現状について

2 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行を踏まえた心肺蘇生法の手順について

□ 議事概要

1 本市における学校事故等への対応の現状について

事務局：（資料Ⅰ「本市における学校事故等への対応の現状について」の説明）

（資料Ⅰ－1～9に基づき、登下校時の安全対策、熱中症対策等について、各校・園に通知を行い、事故の発生を未然に防ぐ対応について報告。また、近年激甚化する気象災害に対応するため、本市危機管理室や福岡管区气象台と連携した取組や災害発生時の具体的な避難場所の確認、災害発生の際の危険が想定される地域に位置している学校について、避難確保計画を作成していること等を報告。

委員：資料Ⅰ－8について、災害時連絡カードに「血液型」を記入させる欄があるが、緊急の場合でもカードの情報をもとに輸血することは無い。また、現在は、医学的には、血液型は知らなくてよいというのが常識であることから、生まれてすぐに血液型を調べたり、小学校入学前までに調べたりするということはない。必要の無い情報のために、調べておかないといけないと思われる方もおら

れると思うがいかがか。

事務局：災害時連絡カードについては、今後もブラッシュアップしていくことを想定している。いただいたご意見を反映させ修正していきたい。

委員：コロナ禍で、学校や様々な幼児児童生徒が外で活動する機会が少なくなっている。現在は、学校や様々な場面で、運動する機械が少しずつ増えてきているのだが、資料Ⅰ－５の熱中症の予防や対策にある通り、急に気温があがるのが4月くらいから起こることが予想される。熱中症については、より一層の対策が必要である。また、体力レベルが低下していることを前提に考えると、怪我や大きな事故が発生しやすい状況であるということ踏まえながら指導していく必要がある。

委員：資料Ⅰ－３について、学校事故への対応を整理してまとめられているのであるが、この資料については、誰に配布されているのか。

事務局：本資料については、各学校に配布しており、教職員が確認することができるようになっている。加えて、今年度新たに見直したものを作成しているところで、教職員全員への配布とネット上で確認することができるようにする予定である。

委員：我々は、常に危機意識をもちながら、行動することが重要であることから、資料Ⅰ－３のようなマニュアルがあると、現場の職員は大変心強い。

2 体育や部活動における事故の予防と緊急時の対応

委員：(資料Ⅱ「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行を踏まえた心肺蘇生法の手順について」の説明)

(新型コロナウイルス感染症【COVID-19】の特徴や感染予防の方法について説明するとともに、流行を踏まえた救急蘇生法の具体的な手順について説明。エアロゾルによる飛沫感染を防ぐために胸骨圧迫前にハンカチやタオルなどで傷病者の鼻や口を覆うことや、成人であれば、人工呼吸をする必要は無く胸骨圧迫、AEDによる処置で対応することなどについて説明。)